

平成20年度熊本県堆肥共励会「耕畜連携推進の部」推薦調書

団体名	水辺プラザかもと出荷協議会	代表者名	大嶋 武志
-----	---------------	------	-------

取り組み事例

<背景及び活動内容>

平成10年に山鹿市(旧鹿本町)に行政と町民の出資で設立された「水辺プラザかもと」へ地元の農産物や加工品の出荷を担う組織として同年設立されました。

現在、会員265名(内農業者185名)で出荷農産物は生産履歴が必須条件となっています。

どのような栽培や管理をすれば消費者が安心して買っただけか、水辺プラザかもとを訪れて満足してもらえるかを考え、安心・安全を基調に農産物の付加価値を付ける取り組みを提案して実行しています。

その一貫として、平成17年に旧鹿本町で稼働開始した山鹿バイオマスセンター(地元畜産農家の家畜糞尿を堆肥・液肥化)の堆肥や液肥を利用しています。

自然にやさしい農産物認証制度

出荷協議会では独自の認証制度(山鹿市自然農業協議会認証)に基づき水辺プラザかもとへ農産物を出荷しています。A、a、bのランクがありますが、完熟堆肥による土作り3年以上等でAランクになります。

液肥散布

山鹿バイオマスセンターの堆肥製造及び散布を水辺プラザかもと出荷協議会の事務局でもある(株)鹿本町振興公社が請け負っています。散布量込みで500円/t。米+麦で3t/10aを散布しています。生産された米の一部は出荷協議会より鹿本米として水辺プラザかもとで販売しています。

<活動の結果及び成果>

水辺プラザかもと出荷協議会では山鹿市自然農業協議会の「自然にやさしい農産物認証制度」を活用していますが、その基本は堆肥や液肥を用いた土作りです。

前述のとおり、その堆肥や液肥は主に山鹿バイオマスセンターから購入していますが、当初は利用可能な堆肥や液肥なのか、どの程度利用して良いかがわかりませんでした。

しかし、平成17年度から19年度まで継続して実施された鹿本農業普及指導課及び山鹿市のバイオマス液肥・堆肥の減化学肥料栽培技術の実証試験により利用が促進されました。

なお、協議会メンバーも中心となって展示園場の提供を行いました。

山鹿バイオマスセンター生産・出荷量

	平成17年度	平成18年度	平成19年度
堆肥生産量(推定)	2,077.38t	2,894.78t	2,917.16t
堆肥出荷量	961.64t	2,478.2t	2,756.18t
出荷率	46.3%	85.7%	94.5%
液肥生産量(推定)	9,389.05t	12,730.71t	11,726.19t
液肥出荷量	3,376.8t	12,489.6t	11,852.2t
出荷率	36.0%	98.1%	101.1%

堆肥・液肥利用により鹿本地方の資源循環型農業が推進されています。また、今般の肥料高騰対策としての利用もすすんでいます。

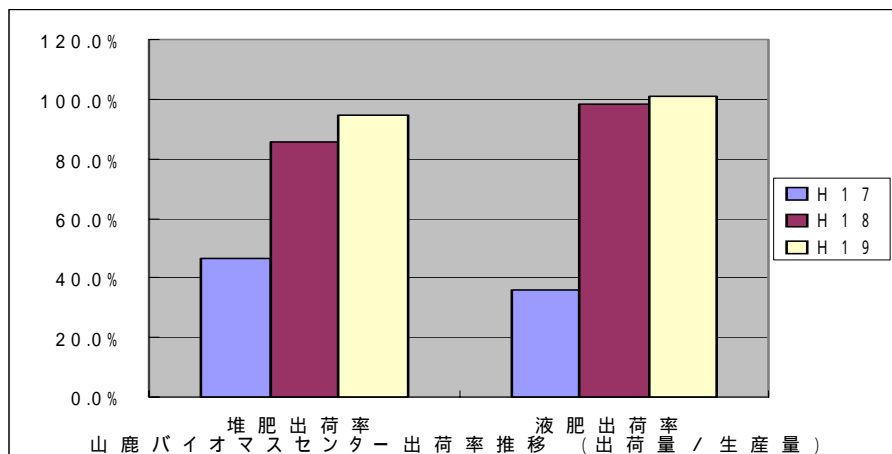
(2)水辺プラザかもと

山鹿バイオマスセンターの堆肥は水辺プラザかもと((株)鹿本町振興公社)を經由して協議会員へ販売されています。

そして、その堆肥を使って生産した農産物は出荷協議会をとおして水辺プラザかもとで販売されています。(注:土作りの原料はバイオマスセンターの堆肥に限定していない)

<今後の目指す方向と課題>

液肥利用については散布作業が課題です。
 利用量が飛躍的に伸びたのもバキューム等の散布機械の導入と散布労力の確保ができたことです。
 しかし、年間1万トンを超える散布量となり、稲刈り後等の散布期間も限定されることから、機械や労力が限界となっています。
 私たち協議会員としては適期に散布してほしいのですが、物理的に困難な状況となっています。これからは、散布時期分散等の検討が必要です。
 水辺プラザかもと出荷協議会は安心・安全な農産物の出荷を心がけています。
 「地元で生産された堆肥を利用した地元の農産物」で更なる付加価値づくりを行いたいと思います。



山鹿バイオマスセンター堆肥



水田への液肥散布



自然にやさしい認証制度: 堆肥利用が基本



トレサと表示